

巻頭言

特集「ヘルスコミュニケーション学の研究方法論の探究」の巻頭言

木内 貴弘
Takahiro Kiuchi

東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学分野
Department of Health Communication, School of Public Health
The University of Tokyo

第 11 回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会は、「ヘルスコミュニケーション学の研究方法論の探究」をテーマとして、2019 年 9 月 21、22 日に開催された。幸いにして、発表者、参加者の皆様のご支援・ご協力、及び大会実行委員会・事務局、運営委員会の尽力により、学術集会はほとんどトラブルもなく進行し、活発な発表・討議が行われ、発表者・参加者数ともに過去最高となるなど、大盛況となった。

日本ヘルスコミュニケーション学会雑誌 11 巻 1 号は、編集委員会のご厚意により、第 11 回学術集会の特集とすることになり、学術集회를主催した東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学分野で編集を担当することになった。そして、第 11 回大会のテーマとこれにもとづいて企画された基調講演、シンポジウムについて、以下のように 5 本の総説論文として取りまとめて、本特集号に掲載することにした。

「ヘルスコミュニケーション学の研究方法論の探究」(2-6 頁)では、第 11 回大会のテーマの選定の背景と経緯、及び基調講演、シンポジウムの企画の立案の過程等について、総説として取りまとめたものである。この論文は、特集号全体を俯瞰する概説となっている。まずこの論文を最初に参照すると特集号の構成がよくわかる。

「ヘルスコミュニケーションにおける専門家と非専門家の架橋」(7-12 頁)は、東京大学大学院情報学環・学際情報学府の石崎雅人教授の基調講演の内容をもとに同教授自身に総説として取りまとめていただいたものである。

「医療における対人コミュニケーション研究のアプローチ」(13-20 頁)、「医療情報をどう作り、どう届けるか～文書に関する研究アプローチ」(21-28 頁)、「映像を創る、映像を分析する」(29-34 頁)は、第 11 回大会で開催された同名のシンポジウムについて、各演者の講演内容に加えて、各座長がシンポジウムの背景、行われた議論の内容、全体の方向性をとりまとめて、解説したものである。

本特集は、第 11 回大会参加者には、講演や議論の内容を整理して、記憶を新たにし、論点をより明確にするために役立つと考えている。また参加者以外の読者には、ヘルスコミュニケーション学の研究方法論について新たな視点を提供することができると考えている。本特集が、日本のヘルスコミュニケーション研究者の今後の研究戦略の構築のために役立つことを願っている。